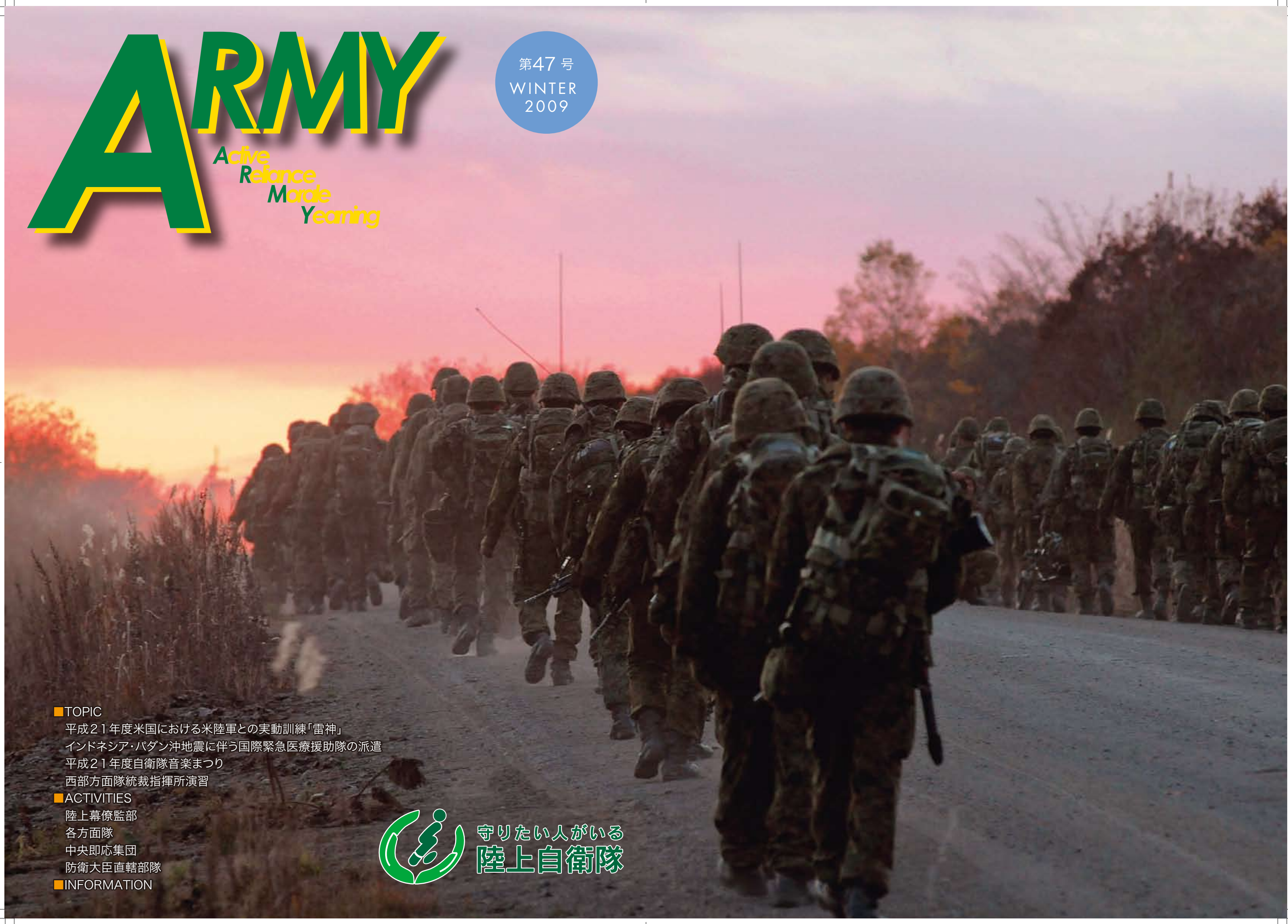


# ARMY

Active  
Reliance  
Morale  
Yearning

第47号  
WINTER  
2009



■ TOPIC

平成21年度米国における米陸軍との実動訓練「雷神」  
インドネシア・パダン沖地震に伴う国際緊急医療援助隊の派遣  
平成21年度自衛隊音楽まつり  
西部方面隊統裁指揮所演習

■ ACTIVITIES

陸上幕僚監部  
各方面隊  
中央即応集団  
防衛大臣直轄部隊

■ INFORMATION



守りたい人がいる  
陸上自衛隊



# 果てしなく広い米国演習場での実弾射撃訓練

TOPIC 1

TOPIC 1





# インドネシア・パダン沖地震に伴う 国際緊急医療援助隊の派遣

9月30日、インドネシア共和国西スマトラ州パダン沖でM7.6の地震が発生した。インドネシアからの派遣要請を受け、10月3日、陸自隊員17名を含む31名の先遣調査チームがインドネシア入りした。

5日発出された、防衛大臣の「国際緊急援助活動の実施に関する自衛隊行動命令」を受け、当初、先遣調査チームとして派遣された長川2佐（第12旅団、医務官）以下12名の要員をもって、インドネシア国際緊急医療援助隊が編組され、10月17日まで医療援助活動を実施した。

長川2佐は、現地で「劣悪な環境下においても村民は明るく対応してくれるので、現地住民との良好な関係が構築できている。全ては医官冥利に尽きる。」旨、述べた。  
10月20日、防衛省において、インドネシア国際緊急医療援助隊は北澤防衛大臣より第1級賞状を、長川2佐は折木統幕長より第2級賞詞を授与された。



巡回診療



巡回診療



診療中の長川2佐

**国際緊急医療援助隊長 長川2佐  
からの一言**  
「インドネシア西スマトラ州パダン沖地震で国際緊急医療援助隊として活動し、先日帰国しました。先遣調査チームとして出発し、現地で援助隊が編成され、その隊長を命ぜられるという例のないミッションでした。また、情報収集、活動場所の選定そして医療活動と全ての場面に参加させて頂き、自分自身としても非常に貴重な経験でした。最終的に治療隊10名による延べ11日間の活動で919名を治療し、同様に国際緊急援助活動を行った他国軍に比べても恥しない実績を上げられたものと思います。」



巡回診療



現地の子どもたち

# 平成21年度米国における 米陸軍との実動訓練「雷神」



無線機で火力要求をする特科FO



燃料給油を行う隊員



狙いを定めて

9月8日から25日の間、米国ワシントン州ヤキマ演習場において、第11旅団（旅団長 松川 将補）は、平成21年度米国における米陸軍との実動訓練「雷神」を実施した。  
本訓練は、制約の少ない米国の訓練環境下において、機動と火力を連携した諸職種協同要領を演練し、もって戦術部隊等の総合戦力発揮のための能力向上を目的に実施した。  
訓練部隊は、第11旅団副旅団長（小森 一 佐）を部隊指揮官として、第11旅団司令部、第10普通科連隊、第11特科連隊、第11戦車大隊、北部方面対空対艦隊等が編成され、9月8日ヤキマ演習場において編成を完了し、後訓練開始式を経て訓練に突入した。訓練は、「機能別訓練」と「総合訓練」に区分して実施され、機能別訓練では、職種部隊毎の能力を最大限に発揮させる射撃等及び諸職種協同、総合訓練では、一連の状況下、増強普通科連隊が遭遇戦における総合戦力発揮について訓練し、練度を向上した。  
本訓練に参加した隊員達は、日本では訓練できない実践的かつ長射程射撃等の訓練で得た成果を教訓で一段とたくましくなって帰国した。



普戦協同突撃



いざ突入!



エアフィルター洗浄



90TK実弾射撃の瞬間



# 平成21年度 自衛隊音楽まつり

11月20日及び21日の両日、日本武道館において平成21年度自衛隊音楽まつりが行われた。

本年度は「翔めける躍動、響きあう志」をテーマとし、音楽演奏及びマーチングが醸し出すスピード感と規律正しさを通じて、自衛隊の活動及び真摯な姿を表現した。

20日、鳩山内閣総理大臣ご夫妻の見守る中、演技支援部隊の支援のもと、中央音楽隊、東北方面音楽隊、中部方面音楽隊、海上・航空自衛隊中央音楽隊をはじめ、ゲストバンド（在日米陸軍音楽隊、在沖米海兵隊音楽隊のドリル演奏、防衛大学校儀仗隊のファンシードリル、自衛太鼓、また本年度初となる第302保安警務中隊のサイレントドリル等）の「糸乱ぬい演舞は、場内の観客を魅了した。

なお、鳩山総理からも、「素晴らしい感動を頂きました。これからも私たちのために、世界の皆様のために精一杯活躍されることを祈っております。ありがとうございます。」との絶賛のお言葉を頂いた。



撮影：第301映像写真中隊



● 練馬駐屯地 大臣初度視察

10月16日、北澤防衛大臣は、練馬駐屯地の初度視察を行った。  
状況報告、観閲式、装備品展示、市街地戦闘訓練展示、営内巡視及び戦車の体験試乗を行った。  
観閲式における訓示で大臣は、「練馬駐屯地は、我が国の政治・経済の中核たる首都圏を中心とした地域の防衛・警備という重要な任務を担っている。隊員諸官においては、国防という崇高な使命に思いをいたし、良き伝統を受け継ぐとともに、一致団結、師団長をはじめとする各部隊長の指揮統率の下、旺盛な士気と優れた能力をもって職務に精励してもらいたい」旨、要望した。  
また、一連の行事を終えた大臣は、「規律正しく栄誉礼をしてもらって、それぞれの部隊が旗を掲げた時とても興奮した。また、74式戦車と90式戦車の試乗によって、装備品の近代化は不可欠であること、営内隊舎の視察を通じ、予算削減により隊員の生活に支障が来ないようにしたいと感じた。」と記者団に語った。



巡閲をする北澤防衛大臣



駐屯地内を視察する北澤防衛大臣



献花する火箱陸幕長

● 平成21年度 自衛隊殉職隊員追悼式

10月24日、防衛省メモリアルゾーンにおいて、平成21年度自衛隊殉職隊員追悼式が執り行われた。  
追悼式は、北澤防衛大臣が主催者、火箱陸幕長が実施責任者となって挙行され、外遊中の内閣総理大臣代理として平野内閣官房長官、折木統幕長をはじめ御遺族及び多数の来賓が参列した。  
北澤大臣が、6柱の殉職隊員(陸上自衛隊4柱、海上自衛隊2柱)の名簿を奉納した後、平野内閣官房長官が、内閣総理大臣の代理として「私達は、御霊の尊い犠牲を無にすることなく、その御遺志を受け継ぎ、我が国の平和と独立を守るという崇高な任務を全うするとともに、世界の平和に、全力で貢献してまいります。」という追悼の辞を伝えた。



栄誉礼を受ける菅総理大臣臨時代理



砲弾の発掘・検知作業風景

● 化学砲弾等111発を回収

9月25日、中国遺棄化学兵器発掘・回収事業派遣隊員吉野2尉(武器学校)他5名が、火箱陸幕長に対して帰国報告を行った。  
派遣隊員は、8月21日から9月24日までの間、中国吉林省敦化市蓮花泡において、中国側と協力し、広大な原野に埋まっていた化学砲弾等111発の発掘・検知・回収作業を行い、無事任務を終了した。  
火箱陸幕長は派遣隊員6名の労をねぎらい、全員に第3級賞詞を授与した。

撮影：東部方面総監部広報室(上)、海上自衛隊(中右)、陸上幕僚監部(中左)、中国遺棄化学兵器発掘・回収事業派遣隊(下)

西部方面隊統裁指揮所演習

● 師団の指揮幕僚能力を向上

9月24日から10月3日までの間、健康駐屯地において、用田西部方面総監を統裁官として、西部方面隊統裁指揮所演習が実施された。  
本演習は、島上作戦における第4師団及び第8師団の総合戦闘力の最大限発揮を主要演習項目とし、師団としての指揮幕僚活動能力の向上を図った。  
統幕副長をはじめ、多数の陸・海・空自衛官、更に米軍からJMF副司令官、リラス准将等が演習を視察した。



熱く指導する用田西方総監



第43普通科連隊指揮所活動



第4師団作戦会議



第4師団指揮所活動



西部方面普通科連隊指揮所活動



第8師団作戦会議



第8師団特科隊指揮所活動



指揮所設営



基礎データ入力作業



宿営準備

撮影：西部方面通信群写真班

演習部隊(4師団)

演習部隊(8師団等)

準備風景



## ● 素晴らしい！郷土への御返し 創立記念行事

10月25日、弘前駐屯地(司令 吉田1佐)は、平成21年度自衛隊創立記念行事として、弘前市内繁華街でパレードを実施するとともに、弘前公園で記念式典と祝賀会食を行った。市中パレードは、昭和43年に弘前駐屯地の開設を祝い、市中行進したのをきっかけに始まった。毎年多くの市民が楽しみにしている秋の恒例行事となっており、今年で33回目。当日は、弘前市中心街の土手町繁華街から、観音台の置かれている市民中央広場までの約600メートルを、第9音楽隊の演奏を先頭に弘前駐屯地部隊の隊員約400名と隊友会員約60名が、一糸乱れぬ堂々たる徒歩行進を披露した。更に、第9偵察隊の車両部隊、火力戦闘部隊、災害派遣チーム、国際平和協力部隊が次々と車両行進し、沿道を埋め尽くした約4000人の市民から大きな拍手と歓声があふれた。引き続き、弘前公園において記念式典が行われ、吉田司令が「我々は、この素晴らしい郷土への御返しとしていかなる状況においても強靱に任務を遂行しつづけてまいります。訓練に励んでいく」と式辞を述べた。式典終了後、公園内において祝賀会食が行われ、多くの招待者とともに自衛隊の創立を祝った。



沿道の市民の歓声に包まれ堂々の行進



国際平和協力部隊の車両行進



来賓・一般観客の前に整列した観閲部隊



第39普通科連隊の徒歩行進



射撃号令を伝達する射撃指揮所の様子



力を合わせ一気に開脚をする隊員

● 平成21年度特科大隊訓練検閲  
10月3日から8日の間、岩手山演習場において、第9特科連隊(連隊長 竹本1佐)は、平成21年度第3大隊訓練検閲を実施した。  
本訓練検閲は、陣地防御における師団特科大隊内特科大隊の行動を課目として5夜6日にわたり実施され、隊員は第39戦闘団の一員となつてそれぞれの職務をまっとうした。  
第3大隊長(内野2佐)の「やることをまっちゃんとやる」の要望事項のとおり、大隊一丸となりその任務を達成した。なお、後期教育を9月16日に修了したばかりの新隊員9名も元気づく参加していた。



必死にたすきを繋ぐ20連隊チーム



われ先にとスタートを切る隊員

撮影：第39普通科連隊第1科広報室(上)、第9特科連隊第1科(中)、第6師団司令部広報班(下)

## ● 「最先任上級曹長 新隊員に戦闘員の心得を伝授」

9月4日、北千歳駐屯地において、第103特科大隊(大隊長 小田島2佐)の最先任上級曹長(清田准尉)が中隊配属間近の新隊員に対し、徒手格闘を教育し戦闘員の心得と技を伝授した。  
上級格闘指導官である最先任上級曹長は、この訓練で「自衛官は国民の生命と財産を守るために存在する。強くなければ、その負託に応えられない。徒手格闘は1対1で戦うときの生き残るための技、是非身につけて欲しい。」と要望した。新隊員は、最先任上級曹長の熱い指導に、真剣に実習に取り組み、ぎこちないながらも戦闘員としての技を体得するとともに、どんなことがあっても戦いに勝つという必勝の信念を涵養した。



気合い十分「やー!!」



熱心に聞き入る新隊員



女性自衛官も力強く「えい!!」

## ● 牙城揺るがず！第26普通科連隊3連覇 「必中の熱き戦い」

9月17日及び18日、上富良野演習場において、第2師団(師団長 渡部陸将)は、5年ぶりとなる師団重迫撃砲競技会を実施した。この競技会には、師団の3コ普通科連隊が参加し、「防御戦闘における射撃」を競技課目、「一連の状況下での陣地進入、火力戦闘、陣地変換、陣地変換後の射撃」を種目として行われた。  
結果は激戦の末、精度100%、速度100%の成績を残した、第26普通科連隊(重迫撃砲中隊長 山口1尉)が優勝し、大会3連覇を遂げた。



走る緊張!中隊効力射、半装填で準備よし!



眼鏡に狙いを定めコリメータを設置する隊員



閉会式終了後胴上げされる優勝中隊長



砲手の照準を見守る分隊長(打田2曹)

## ● 26普通連第2小隊2分隊長 打田2曹からの一言

「連覇出来て大変嬉しい。写真の場面では、砲手に「緊張せず、ミスに注意してやろう」と声掛けをしていました。」

## ● 札幌市防災訓練に参加

9月1日、第11旅団(旅団長 松川将補)は、札幌市が実施した「札幌市総合防災訓練」に参加した。訓練では、札幌市内を流れる豊平川に「81式自走架柱橋」を架設し、実際に災害派遣車両を通過させる訓練や、警察・消防と協同連携し土砂災害で埋もれた人々を救出する訓練等を実施した。



81式自走架柱橋を架設し通過する災害派遣車両



車両に閉じこめられた人を救出するためにドアをこじ開ける第11旅団隊員



土砂災害で埋もれた人々を救出する第11旅団隊員

撮影：第1特科群第1科広報(上)、第2師団司令部広報室(中)、第11旅団司令部広報室(下)



● 約230名の隊員が危険箇所を手際よく清掃

9月3日及び4日、第37普通科連隊（連隊長 大庭1佐）隊員約230名は、和歌山市が実施する「史跡和歌山城保護対策協力事業」に参加した。

隊員たちは巧みにロープを操り、垂直にそそり立つ急峻な石垣を颯爽と降り、城壁の雑草や枝を鎌等で除去した。天守閣では、レンジャー隊員が屋根先まで行き、ヘラやほうきで瓦の汚れを取り除いた。

また、18回目の参加となる今年は、新たな試みとして軽装甲車の展示と高機動車の体験試乗も行った。危険箇所を手際よく清掃作業する隊員の姿を見て、和歌山城を訪れた観光客や道行く市民から、「ご苦労様です。」「ありがとうございます。」と、隊員に激励の声がかかった。



石垣の清掃を行う隊員



天守閣の屋根先で作業を行うレンジャー隊員



お堀の清掃を行う隊員



高機動車の体験試乗



石垣の清掃を行う隊員



気合いを一致させた重材料運搬



伐採材の搬出に一致団結

● 2009秋季日本原演習場整備を実施

10月25日から11月3日までの間、第7施設群（群長 富田1佐）は、秋季日本原演習場整備を実施した。日本原演習場の機能向上・改善・維持及び災害復旧を目的に、第7施設群長を整備隊長とした日本原演習場整備隊が編成された。整備隊には、第13旅団、第14旅団、第8高射特科群その他方面直轄部隊等、計28個部隊から、人員997名、車両等373両が集まった。

10日間に亘る長期間かつ膨大な整備項目に対し、日本原演習場整備隊は、任務遂行に向け一致団結的確な工程管理で、目的及び設計基準に応じた整備を順調に推し進めた。

11月3日、中部方面隊による完成点検が行われ、点検官である方面行政副長（山本将補・当時）は各作業現場で整備作業にあたった隊員をねぎらい、それぞれの整備作業の品質の高さに終始感心した様子で「100点満点中120点のでき栄え」と評価した。

● 航空管制無事故300万回達成

10月20日、陸上幕僚監部において、火箱陸幕長は、航空管制無事故300万回の功績を称え、中部方面管制気象隊第1派遣隊（隊長 長野3佐）に第2級賞状を授与した。

なお、航空管制無事故の功績による第2級賞状の授与は陸上自衛隊では初めてである。

表彰後の懇談において、火箱陸幕長は「これを機にさらに意識を高め、期待される管制気象隊として活躍してもらいたい」と旨、述べた。

● 管制陸曹 大崎1曹からの一言

「航空管制無事故300万回に満足することなく、これからも航空安全に関し努力を惜みず、引き続き航空管制無事故の継続、並びに航空科として自衛隊としての任務遂行に貢献していきたいと思っております。」



勤務中の大崎1曹



火箱陸幕長から表彰される中部方面管制気象隊第1派遣隊長

● 「平成21年度連隊総合射撃競技会」及び「即応予備自衛官雇用企業主等部隊訓練研修」

9月19日から22日までの間、関山演習場及び高田駐屯地において、第48普通科連隊（連隊長 山崎1佐）は、「平成21年度連隊総合射撃競技会」を実施し、226名の即応予備自衛官を含む262名が競技に臨んだ。

連隊長は開会式において、「総合戦力の発揮」「安全管理」の2点を要望し、班戦闘射撃の部・81mm迫撃砲の部・87式対戦車誘導弾の部の、3競技種目による戦いの火蓋が切られた。

各競技とも接戦となり、81mm撃砲の部・87式対戦車誘導弾の部の2種目を第1中隊が制したものの、班戦闘射撃の部においては、他中隊を大きく引き離した第3中隊が、堂々の2連覇を飾った。連隊長は閉会式において、「各中隊が非常に高いレベルの争いをしてくれてうれしく思う。更なる練成と活躍を期待する。」と訓示を述べ、競技会は終了した。

なお、今回は、「即応予備自衛官雇用企業主等部隊訓練研修」が実施され、20日には新潟地本から11名、21日には長野地本から11名の企業主計22名が訓練研修に参加した。



班戦闘射撃の部



競技会を研修する企業主



実距離誘導の部



慎重にUH-1を積載する隊員



専用の車輪を装着し、C-130キャビン内へ誘導し収容する隊員



C-130へ搭載されるUH-1



綿密に機材を調整する隊員

● 国際緊急援助活動待機部隊と航空自衛隊との協同訓練

9月10日、木更津駐屯地において、国際緊急援助活動待機部隊と航空自衛隊との協同訓練が実施された。

本訓練は、国際緊急援助隊要員及び各支援隊要員に対し、航空自衛隊との協同訓練を実施することにより、国際緊急援助隊派遣待機態勢の向上に資することを目的に、C-130へのUH-1搭載訓練等が実施された。

訓練担当官を東部方面航空隊長とし、陸自からは東部方面航空隊、中部方面航空隊が、航空自衛隊からは第1輸送航空隊が参加した。

● 「街かどステーション 噂を求めてどこまでも」への取材協力

9月17日、霞ヶ浦駐屯地において、ニッポン放送（ラジオ）の取材が行われた。

これは、ニッポン放送「街かどニュースステーション」より取材の依頼を受け、駐屯地内の委託売店「ヤマザキショップミスト」の紹介を行った。

本取材の中では、駐屯地の位置や、自衛隊グッズ・自衛隊土産も紹介し、駐屯地の広報ができ、あわせて募集の一助となった。



和やかな雰囲気の中での取材風景

撮影：第48普通科連隊第1科広報(上)、東部方面航空隊広報班(中)、霞ヶ浦駐屯地広報班(下)



### ● 特殊作戦群 選考検査

10月中旬、習志野駐屯地において、特殊作戦群の選考検査が行われた。全国各地から特殊作戦戦士を目指す多数の志願者が集まり、個人の適性・能力を検する種目に引き続き、共に生死を分け任務に邁進するために必要な資質を検する少人数による種目が実施された。選考検査は、ゴールが見えない状況下で、重材料を運搬する等の過酷を極め、志願者の表情は苦痛で歪むも、任務達成に執念を燃やす若者の目は輝きを失うことは無かった。特殊作戦群では、引き続き、この厳しい試練への挑戦者を幅広く求めている。群長は、「国防のため、身を投げ出し敢えて困難な道を選びたいと考えている隊員は、是非、受検してもらいたい」とコメントしている。



選考検査を見守る古田特殊作戦群長(左)、湯浅陸幕補任課長(中)(いずれも当時)



選考検査に合格した隊員たちの訓練の様子



重材料運搬する志願者

## UNDOF#28



徒歩行進訓練の様様



コンテナの積載・輸送要領の調整



UNDOF司令官イェルケ少将(中)立会のもと引継書に署名する高木隊長(右)及び小山隊長(左)

### ● 28次要員、活動中

ゴラン高原派遣輸送隊第28次要員(隊長 小山3佐)は、第27次要員(隊長 高木3佐)からの業務引継ぎを完了し、9月3日に指揮転移を迎えた。9月5日には第2波も到着し、ゴラン高原における活動を開始した。

第28次要員は、健康状態は良好で士気も旺盛であり、第27次要員から、今後の活動のために必要な事項を一つ一つ現地・現物により確実に申し受け、順調に業務を引き継ぎ、現在、定期輸送、警備道整備等の業務を着実に実施している。

また、ポーランド大隊が主催する徒歩行進訓練に参加し、体力・気力の向上及び各国軍人との交流を図った。隊員たちは、「日本の代表として良い仕事をしよう」という気持ちを胸に、意欲的に活動中である。

撮影：陸上幕僚監部広報室・特殊作戦群(上)・ゴラン高原派遣輸送隊(下)

### ● 職場体験学習に協力

9月17日及び18日、北熊本駐屯地において、第8特科連隊(連隊長 高橋1佐)は、合志市立合志中学校の2年生10名の職場体験学習に協力した。協力にあたった第1大隊(大隊長 篠田2佐)隊員8名は、皆同世代の子供を持つ親でもあり、我が子に対する教育と同様、真剣に取り組んだ。また、参加した中学生たちは職場体験学習を通じて、より一層自衛隊に対する理解を深めた。



基本教練にて行進間の動作を演練する中学生



体験学習に参加した中学生みんなで記念撮影(前列左:本田さん)

### ● 本田ゆりなさんの感想

『私は小さいころから自衛隊に入るのが夢です。だから、職場体験の場所も自衛隊を選んだし、リーダーも自ら希望しました。』

1日目にあった敬礼や気を付けや右向け右などをして、最初は何でこんな事をするのかなあと思っていました。だけど自衛隊は集団行動が大事だと思ったので、一生懸命やりました。それと武器を見た時かっこいいなあと思いました。小銃は自衛隊に入ると射撃させてもらえると思ったので、私もいつか自衛隊に入隊し、射撃したいと思いました。また、レンジャー訓練やイラクの国際貢献のビデオを見て、私も実際に行ってみたいなと思いました。また、2日目にあった自衛隊車両の体験搭乗も楽しかったです。この2日間、自衛隊についてよく分かり、改めて将来自衛隊に入ろうと思いました。2日間ありがとうございました。』

### ● 離島演奏「ふれあいコンサート in 下甌島」

10月8日及び9日、鹿児島県薩摩川内市下甌島の市立手打小学校・海星中学校において、航空自衛隊第9警戒隊(下甌島分屯基地)の支援のもと、第8音楽隊(隊長 穂積2尉)の隊員34人は音楽演奏指導(小学校のみ)及び「ふれあいコンサート」を2公演行った。コンサートは2部から構成され、第1部では行進曲やセミクラシックなど5曲を演奏し、「手打小学校校歌」と「100%勇氣」の2曲は、手打小学校金管バンドと合同演奏した。第2部では、地元の民謡やなじみのあるポピュラーな曲8曲を演奏した。2公演合わせて約450名集まった聴衆からは、大きな拍手が鳴り響いていた。

また、8日は小学生25人に対して、合同演奏のための演奏指導を行い、楽器毎の個別指導において、小学生は一生懸命隊員に教わっていた。



演奏指導の様子



音楽演奏会(手打小学校)

### ● 安全に、そして速やかに

9月22日、第8後方支援連隊衛生隊(隊長 田淵3佐)は、国立病院機構熊本医療センターの建て替えに伴う、患者輸送支援を行った。これは、熊本県知事から第8師団(師団長 木崎陸将)に対して要請があったもので、衛生隊の隊員43名をもって支援した。本支援は、熊本県の災害拠点病院である当該医療センターの閉鎖期間を局限して民生の安定に寄与するとともに、患者輸送能力の向上を図ることを目的として行われた。現病院病室から新病院病室まで、ベッドのまま搬送する必要がある患者114名を、病院の医師・看護師と連携して輸送を実施し、無事任務を完了した。



患者搬送を指示する隊員



医師・看護師と共同で搬送する隊員

### ● 支援に参加した松本3曹からの一言

「今秋、隊は熊本医療センター移転支援を実施した。」

私は他のスタッフと新病棟への患者搬送を行う中、医療従事者、ボランティア、看護学生等が、同じ目標達成のために「多職種共同」している姿を見て、医療と国防の根底の近さを感じることができた。」

撮影：第8特科連隊広報班(上)、第8師団司令部広報室(中)、第8後方支援連隊広報(下)



● 第13回全自衛隊陸上競技会

10月6日、朝霞駐屯地内自衛隊体育学校グラウンドにおいて、第13回全自衛隊陸上競技会が開催された。大会は生憎の悪天候の中、陸海空の自衛隊から415名の隊員が参加し、部隊の名誉を背負った戦いが繰り広げられた。男子5000m（普通科教導連隊 山下伸一3陸曹：最優秀選手賞）、女子3000m（第11施設群 松本沙夜陸士長）、男子4×100mリレー（少年工科学校チーム）の3種目で大会新記録を更新する等、白熱した試合が繰り広げられ大いに盛り上がった。

本大会では、東京五輪で男子マラソン銅メダルを獲得した故円谷幸吉選手の栄誉を称え、男子10000mの優勝者に円谷賞を授与している。今年は、30分45秒14の記録で優勝した佐藤和彦陸士長（第2普通科連隊）に贈られた。



開会式の模様



男子10000メートル競技



優勝した佐藤士長

● 第2普通科連隊 佐藤士長からの一言

「今大会に向けて体調は良かったのと、順調に練習をこなせていたのでもう優勝したかった。勝てよかったが、もっと最初からレースを引っ張って大会新記録で優勝できるような強い選手になりたい。」

● 2年連続世界第2位に輝く！

10月25日、マレーシアにおいて実施された第23回キナバル山国際クライマソン（スカイランナーワールドシリーズ最終戦）に、普通科教導連隊（連隊長 中津1佐）宮原徹3曹が、日本代表の招待選手として出場した。

本大会は、東南アジア最高峰キナバル山（山頂4095メートル）を往復する、距離21キロメートル・標高差2229メートルの世界一過酷な山岳耐久レースである。また、本年度の最終戦であることから、世界チャンピオンが決定するというところで、世界の強豪が集まった大会となった。

その中で宮原3曹は、昨年に引き続き、第2位に入賞した。



ゴールの瞬間



世界のトップ3

● 普通科教導連隊 宮原3曹からの一言

「昨年に引き続き、キナバル国際クライマソンに参加させていただきました。

今年は、スカイランナーワールドシリーズ最終戦（ポイント獲得点が倍・事実上世界チャンピオンを決める）ということもあり、かなりレベルの高いレースとなりました。登りには自信がありましたが、最初からの凄いやいペースに対応することができず、また下りでは、4分近く離されてしまいましたが、何とか昨年に引き続き2位でゴールすることが出来ました。今回のレースは、世界との差を痛感させられる内容でした。今回は優勝を目指したいです。」

● 高射教導隊、終業行事

9月10日、下志津駐屯地において、高射教導隊（隊長 宮前1佐・当時）は、平成21年度一般陸曹候補生課程後期・新隊員後期教育終業行事を実施した。

本行事には新隊員等の両親、祖父母、兄弟を含む8家族16名が参加された。

新隊員等は、今までの訓練成果をてもらおうと、家族が見守る中、元気発射と訓練展示を実施した。



我が娘の成長を真剣な眼差しで見つめる母親

撮影：東部方面通信群(左上)、東部方面総監部広報室(上右)、高射教導隊広報室(下)

派遣海賊対処行動航空隊 #1 & #2



見送りを受ける第2次派遣隊員



出国報告する第2次派遣隊員



無事帰国し、訓示を受ける第1次派遣要員

● 引き続きソマリア沖・アデン湾の安全確保に向けて

10月5日、海上自衛隊第5航空群（航空自衛隊那覇基地内）において、派遣海賊対処行動航空隊第2次要員の出国行事が実施された。中央即応連隊を基幹とした、警衛幕僚岡岡2佐（中央即応集団司令部）以下37名の陸自派遣隊員が、ソマリア沖・アデン湾の海上交通安全確保のため、ジブチへ派遣された。

杉本自衛艦隊司令官は、「海洋の自由利用を確保するという重大な責務に強い使命感と確固たる信念を持って、一致団結、その実力を遺憾なく発揮し、それぞれの職責を果たしてもらいたい。」旨、訓示した。

派遣要員は、第1次陸自派遣要員と同様にジブチ空港でのP-3Cの警備やその管理等を実施中である。

また、10月11日、宇都宮駐屯地において、派遣海賊対処行動航空隊（第1次要員）陸自派遣隊員の慰労行事が実施された。派遣隊員を代表して、警衛幕僚森川2佐及び警衛隊長波多野3佐が柴田前中央即応集団司令官に対し、「帰国、異状なし」を報告した。

UNMIN#3



警備用武器を点検する高橋1尉(左)



武器点検作業中の遠藤隊長(右)



○ セクター司令部  
○ マオイストキャンプが所在する郡  
東部・中部・西部にそれぞれ2名ずつ配置

● 現地で順調に任務遂行

UNMINに派遣中の第3次軍事監視要員（隊長 遠藤2佐以下6名）は、ネパール国内各地において順調に軍事監視任務を遂行している。

隊員は、首都カトマンズから各地のマオイストキャンプ、ネパール国軍施設等に派遣され、3～4週間軍事監視任務を行い、その後カトマンズで1週間程度勤務し、再び派遣されるという勤務サイクルで活動中である。

UNMIS#3



北澤防衛大臣から辞令書を受け取る 徳留3佐(左)及び田中1尉(右)

● スーダンの平和に向けた活動を継続

10月9日、防衛省において、徳留3佐及び田中1尉（中央即応集団）は、北澤防衛大臣から辞令書が交付された後、火箱陸幕長に対して出国報告を行った。

2名は来年4月30日までの間、首都ハルツーム市内にあるUNMIS司令部において、それぞれ兵站幕僚、情報幕僚として調整、管理等の業務を行う予定である。

撮影：中央即応集団司令部(上)・ネパール派遣隊(中)、第301映像写真中隊(下)



# EVENT INFORMATION

※天候等の理由によりイベントの日程・内容等を変更する場合があります。事前に陸上自衛隊ホームページをご覧いただくか連絡先の広報等にお問い合わせくださることをおすすめいたします。

## 北部方面隊

- 1月30日(土) 北部方面音楽隊第14回室内演奏会 札幌コンサートホール「キタラ」小ホール(札幌市) ☎011-581-3191 北部方面音楽隊
- 2月23日(火) 第1音楽隊第12回室内演奏会 札幌コンサートホール「キタラ」小ホール(札幌市) ☎011-581-3191 第1音楽隊
- 3月6日(土) 北部方面音楽隊第63回定期演奏会 札幌コンサートホール「キタラ」小ホール(札幌市) ☎011-581-3191 北部方面音楽隊
- 3月6日(土) 第7音楽隊第34回定期演奏会 千歳市民会館(千歳市) ☎0123-23-5131 第7師団広報・渉外班
- 3月下旬 釧路自衛隊ミュージックフェスタ 釧路市民文化会館(釧路市) ☎0154-40-2011 釧路駐屯地広報班
- 3月中旬 第2師団写真展 旭川市アウアトリウム(旭川市) ☎0166-51-6111 第2師団広報室
- 通年 北鎮記念館特別企画展 旭川駐屯地北鎮記念館(旭川市) ☎0166-51-6111 第2師団広報室

## 東北方面隊

- 2月20日(土) 第6師団音楽まつり 天童市民文化会館(山形県天童市) ☎0237-48-1151 第6師団司令部広報室
- 3月6日(土) 第9師団定期演奏会 青森市文化会館(青森市) ☎017-781-0161 第9師団司令部広報室
- 3月13日(土) 第4回東北方面音楽隊定期演奏会 イズミティエ21(仙台市) ☎022-231-1111 東北方面隊監部広報室
- 3月13日(土) 第27回自衛隊郡山音楽祭 郡山市民文化センター(福島県郡山市) ☎024-951-0225 郡山駐屯地広報室
- 3月13日(土) 若手駐屯地音楽隊第25回定期演奏会 盛岡市民文化ホール(盛岡市) ☎019-688-4311 若手駐屯地司令業務室

## 東部方面隊

- 1月10日(日) 第1空挺団降下訓練始め 陸上自衛隊習志野演習場 ☎047-466-2141 第1空挺団広報班
- 1月30日(土) 中央音楽隊第129回定期演奏会 すみだトリフォニーホール(東京都墨田区) ☎048-460-1711 中央音楽隊演奏班
- 2月11日(木) 中央音楽隊第42回室内演奏会 朝霞市民文化会館ゆめパレス(埼玉県朝霞市) ☎048-460-1711 中央音楽隊演奏班
- 2月13日(土) 中央音楽隊第43回室内演奏会 国分寺市立いずみホール(東京都国分寺市) ☎048-460-1711 中央音楽隊演奏班
- 3月18日(木) 東部方面音楽隊室内演奏会 川口総合文化センター リリア音楽ホール(埼玉県川口市) ☎048-460-1711 東部方面音楽隊総務班

## 陸上自衛隊広報センター(埼玉朝霞市)

- 2月7日(土)・8日(日) スプリングフェア 陸上自衛隊広報センター ☎048-460-1711
- 2月20日(土)(予備21日(日)) ヘリコプター体験搭乗(12/2~2/8申込受付) 陸上自衛隊広報センター ☎048-460-1711
- 3月20日(土)~4月4日(日) 水・土・日及び祝日 大型トラック体験試乗 朝霞駐屯地(東京都練馬区) ☎048-460-1711 陸上自衛隊広報センター

## 中部方面隊

- 1月16日(土) 第3師団第40回定期演奏会 いたみホール(兵庫県伊丹市) ☎072-781-0021 第3師団司令部広報室
- 1月16日(土) 豊川駐屯地音の祭典 アイラザ豊橋(愛知県豊橋市) ☎0533-86-3151 豊川駐屯地司令業務室
- 1月24日(日) 第14旅団定期演奏会 アルファあなふきホール(高知県高松市) ☎0877-62-2311 第14旅団司令部広報室

- 2月6日(土) 陸上自衛隊第10音楽隊第34回定期演奏会 愛知県芸術劇場(愛知県名古屋市) ☎052-791-2191 第10師団司令部広報室
- 2月12日(金) 第24回陸上自衛隊中部方面音楽隊室内演奏会 宝塚ベガ・ホール(兵庫県宝塚市) ☎072-782-0001 中部方面音楽隊
- 2月27日(土) 陸上自衛隊 中部方面音楽まつり アルカイックホール(尼崎市総合文化センター)(兵庫県尼崎市) ☎072-782-0001 中部方面隊監部広報室

- 3月7日(日) 入隊・入校予定者激励コンサート 広島国際会議場フェニックスホール(広島市) ☎082-221-2957 広島地方協力本部広報班
- 3月7日(日) 愛媛県自衛隊 入隊・入校激励会 ミニコンサート ひめぎんホール(愛媛県松山市) ☎089-941-8381 愛媛地方協力本部広報室
- 3月7日(日) 春日井駐屯地創立43周年記念行事 春日井駐屯地(愛知県春日井市) ☎0568-81-7183 春日井駐屯地司令業務室広報班

## 西部方面隊

- 1月30日(土) 第1混成団音楽隊定期演奏会 沖縄コンベンションセンター(沖縄県宜野湾市) ☎098-857-1155 第1混成団広報室
- 2月19日(金) 西部方面音楽まつり 沖繩公演 福岡サンパレス(福岡市) ☎096-368-5111 西部方面隊監部広報室
- 2月27日(土) 西部方面音楽まつり 熊本公演 崇城大学市民ホール(熊本市) ☎096-368-5111 西部方面隊監部広報室



アンケートQRコード

# INFORMATION

## 北澤防衛大臣着任

鳩山新内閣の発足に伴い、9月17日、防衛省において防衛大臣の離任が行われ、浜田前防衛大臣に代わり、北澤参議院議員が第7代防衛大臣に就任した。北澤新大臣は、「我が国の平和と独立を守り、更には我が国が国際社会で求められている責任と役割を果たすとともに、国民の負託に応えるため、全力を尽くしてまいります。自衛隊員諸君は、常に国民とともにあり、この国の安全保障を全うしていることを十分肝に銘じて、日々の職務に精励するとともに、国民の信頼こそが、防衛省・自衛隊存立の基盤であるのだという事実に向き合っていくべきだ」と訓示した。



儀仗隊の巡閲を行う北澤防衛大臣

## 命がけの任務遂行など 国民に感動を与えた自衛官を表彰

10月9日、産経新聞社主管による「第8回国民の自衛官」の表彰式が、寛仁親王殿下ご列席のもと都内で行われた。受章の栄誉に浴したのには、陸・海・空自衛官6名と1組、うち、陸上自衛隊からは3名が受章した。受章者代表の下園2佐は、「自衛官は命懸けで仕事をしていますが、国民のためになっていると実感できる機会は多くはありません。「国民の」という名前が素晴らしいです。これまでの努力をすべて認めてもらえるような響きがあります。」と喜びの言葉を述べた。受章者及び功績については、表のとおり。



表彰式に参加した受章者(前列左:清村1尉、前列左から2人目:下園2佐、中列左から3人目:柏木2尉)

受賞者	階級	所属	功績
下園 壮太	2佐	衛生学校	陸上自衛隊におけるカウンセリングの実施及びカウンセリングの普及
清村 浩久	1尉	第10飛行隊	航空無事故操縦約5266時間、30回の災害派遣 20年2月三重県において暗視装置を駆使して緊急患者空輸
柏木 博光	2尉	熊本地方協力本部	地元小学生から一般の9コ団体180名に対して太鼓指導した 地元高校から感謝状

## 岩手・宮城内陸地震災害派遣の功績を称えて

9月2日、総理大臣官邸において、防災功労者内閣総理大臣表彰式が行われ、平成20年岩手・宮城内陸地震に係る東北方面隊災害派遣部隊・同配属部隊・同支援部隊(代表 君塚東北方面総監)に対し、麻生前内閣総理大臣から表彰状が授与された。これは、平成20年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震による災害に際し、迅速かつ確に災害派遣業務を実施し、被害を最小限に止めた功績により受賞したものである。



表彰式の様子

撮影:第301映像写真中隊

生まれ変わった  
トップページ

進化したYouTube  
陸自広報チャンネル

楽しさいっぱいの  
ファンコミュニティ

## 陸自ホームページが、変わります。

2010.Feb Debut

### 投稿要領

編集部では、随時皆様からの投稿をお待ちしております。投稿要領は、データの場合、300万画素以上の中高画質で撮影したものを、1.3MB未満は部内指揮システムノーツで、陸自広報室部内広報担当にメールにて、1.3MB以上はCDかMO(写真の場合はキャネサイズ)にて送付して下さい。その際、いつ誰がどこで何を撮影したものが、必ず明記下さるようお願い申し上げます。

なお、ご投稿いただいた写真は、ARMYのみならず、防衛省・自衛隊の制作物等で多く発表させていただきますので、予めご了承下さい。

### 編集後記

今回号より、隊員の「誇り・自信」の高揚、及び隊員家族の「不安感」を取り除くことを目的に、「隊員等からの一言」という記事の掲載を始めました。また、より多くの写真と各部隊から頂いた記事を出るだけそのまま載せるよう心がけました。

【アンケート協力へのお願い】  
今後の作成の参考のために、皆様からご意見を頂きたいと思っております。右上のQRコードよりご回答をお願い致します。

ARMY第47号★2009年冬  
発行日★平成21年12月10日  
編集・発行★防衛省陸上幕僚監部広報室 ARMY編集部  
〒162-0082 東京都新宿区西谷本村町5番1号  
TEL: 03-3268-3111  
(内線: 8-6-40097 FAX: 40099)  
ARMYは陸上自衛隊ホームページにも掲載されております。  
是非ご自宅でご家族等と一緒にご覧下さい。  
<http://www.mod.go.jp/gsd/>

表紙・裏表紙  
撮影者: 第2通信大隊写真班 2曹 阿部裕一  
題名「未来を掴め」第2師団演習「EAGLE EYE2009」より。